

大分教育事務所訪問 12

臼杵市立臼杵小学校から学ぶ

学校の教育目標「やさしさ・たくましさ・かしこさを身につけ、困難に立ち向かう『生きぬく子』」を育成するために、学校として育成を目指す資質・能力を「自己管理能力（自己肯定感）」「協働性」として組織的に取り組んでいる臼杵小。そのために、子どもは「本物の『やさしい』マンになろう（いつでも・どこでも・だれとでも）Challenge, do」を合い言葉に取り組んでいます。

学校経営から学ぶ

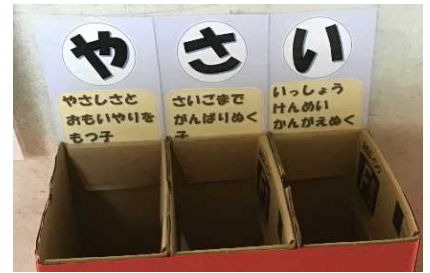
児童の課題について、全職員で資質・能力の3本柱を中心に協議しているの、それぞれの取組の目的が共有されていると感じました。また、学校組織的に運営するため、それぞれの組織の役割と、教頭、主幹教諭、指導教諭、教務主任、AD等責任者を明確にしていることで、当事者意識と人材育成を図っています。

今後は、経営ビジョンにある、子どもも教職員も成長と自己肯定感を実感できるためにも、それぞれの取組や目標について定量化できる（数値で表せる）ものは数値で示し、数値では表しにくいものは定性化（具体的な子どもの姿、価値観や児童観等の“観”の共有）を図ることや、期間を決めて集中して取り組み、達成した目標は廃止、または目標の向上（数値を上げる、「先手挨拶+α」等レベルを上げる）させると、自己管理能力が高まり成長をより実感ができると思います。

授業から学ぶ

校内研修が充実しているの、指導案からもどの資質・能力をつけるのかが明確でした。また、本校の目玉の一つである「シェアタイム」も、一人をつくらない、一人を大切に場面が見られました。特に、3年生の「こまを楽しむ」や4年生の算数では、個々の「らしさ」が発揮され、6年生の教室からは拍手があふれていました。日頃からの人間関係づくりプログラムや個別の指導計画が授業に活かされていると思いました。（私も校内研修に参加したい！学びたい！）

今後は、授業の「ふりかえり」の場面で、子ども達がどのような事を書くのかどんな姿になったら良いのか等、主語を子どもにしたゴールの姿をイメージすることで、「めあて」との連動や、評価規準がより明確になると思いました。



一生懸命だから
一生懸命考えたから伝えたくなる。友達が考え抜いたことだから認めたくなる。そして、共に考えが深まる。



相手軸
プリントを相手に向けて説明する。聞く人は相手の思いを理解しようとする。相手軸で行動すると「やさしさ」が生まれてくる。



良さを知る
優しさと思いやりがあるから、友達の「よさや長所」を認め合うことができる。



笑顔になる課題
「先生それは違うよ～」
教師がわざと間違えたり、わからないフリをすると、教室が盛り上がりますね。